

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

比較、ふたつの投信 (リスクは何処にあるか)

今年7月、独立系投信「さわかみファンド」の健闘振りをお知らせしたが、何人かの方から同ファンドの資料を取り寄せたり、実際定額購入を始めたとの声が寄せられ嬉しく思った。ちょっと責任も感じたが、私は自分が少しばかり定額購入している以外に「さわかみファンド」と何の利害関係はない。投信市場に関心を持ち、「さわかみファンド」のような投信が増えることを願う者の一人に過ぎない。だから許されると思うのだが、株式市場が活況を呈するここで更に「追い打ち」をかけてみたい。

同じアクティブ運用で、業界のガリバー「ノムラ」が総力を結集して立ち上げた株式投信「ノムラ日本株戦略ファンド」と「さわかみファンド」を比較してみる。「日本株戦略ファンド」を選んだのは、別にノムラが憎いからではなく、設定時期がそんなに変わらない、募集方法が対照的、業界最小規模と最大規模、ということで他に他意はない。

まず、両ファンドの概要は次の通りである。

	さわかみ	ノムラ戦略
設定日	1999.8.24	2000.2.2
受託銀行	日興フィ信託	野村信託
申込手数料	0.00%	3.15%
信託報酬	1.05%	1.995%
スタート純資産	16億円	1兆円超
現在純資産	1,556億円	4,109億円

次には3年前から現在に至るまでの基準価格(単位:円)の推移である。

	さわかみ A	ノムラ戦略 B	A-B
02.3.29	10,305	5,355	4,950
03.3.28	8,485	4,098	4,387
04.3.31	12,514	5,901	6,613
05.3.31	13,631	5,993	7,638
05.12.15	17,336	8,248	9,088
05/02 幅	7,031	2,893	4,138

ざっと以上の通りだが、上表から何が読み取れるだろうか。概要からは、手数料が違う、信託報酬が違う、設定時のお金の集まり具合が違う、その後の純資産推移が増加・減少と対照的、等が指摘できる。

そして、基準価格の推移からは、基準価格の上

がる速度は違うためドンドン差が開いている、ことが指摘できる。二つのファンド設定時にそれぞれ100万円ずつ投資したとすると、現時点では「さわかみファンド」は173万円と増えているのに対し、「日本株戦略ファンド」は82万円に減っている勘定となる。

同じ日本株式を運用対象とするファンドで一体何故こんな違いが起こるのだろうか。

以下は私見であるが、第一に運用者の違いにある。ノムラの方は大会社に勤めるサラリーマン・ファンドマネージャーが運用している。サラリーマンの限界が露出している。

第二に、投信の募集目的が違う。ノムラはこのファンドで1兆円を集めグループで300億円を超える販売手数料を手にした。そして関連の信託銀行に毎年100億円を超える報酬を落としている。ビッグネームを活用して巨額資金を集めただけの手数料獲得ファンドと言われても仕方ない。

第三に、運用方針が違う。さわかみはただ1本、これだけを長期目的で運用しているが、ノムラはたくさんある日本株投信の一つに過ぎない。駄目ならば止めればいいのだ。

一寸言い過ぎかもしれないが、比較するとそんな風を感じざるを得ない。勿論、ノムラにしても、この鳴り物入りで登場し見事に期待を裏切った巨大ファンドが喉元にひっかかり苦しんでいるは多分間違いない。この失敗ファンドを早く遠い過去の物語にしたいと思っている筈だ。しかし、純資産は今でも4,000億円を超えている。この種の投信では、規模で第2位のビッグファンドなのだ。最後まで総力を挙げて運用して欲しい。

最近、いろいろな出来事を見るにつけ「リスクとは何か」を考える機会が増えている。私自身、投資の世界のリスクは「知らないこと」ではないかと考えている。値動きが激しいからリスクがあるのではない。商品そのものを知らないからリスクが高くなるのである。発行元が大きいからリスクが少ないのではない。発行元が信頼できるから少ないのである。相手の信頼度は自ら調べて知り理解する他ない。それを怠って、嘆き悲しみ文句を云っても同情してくれる人は少ない。

とはいえ、今の社会はリスクに満ち溢れている。対し知ることには限界がある。そう認識した上で前に進みたいものだ。